

「キャリア発達を支援する教育課程及び就労支援の充実」～卒業10年後を目標に見据えた一貫した教育支援の追求～

【概要版】

熊本大学教育学部附属特別支援学校

重点取組(□)

現状(○)と課題(▲)

方向性(➤)

キャリア教育の視点に基づく小学部段階からの一貫した教育支援

1

- ライフキャリアの視点に基づいた「キャリア教育全体計画」の見直し
- 学習評価を基にした教育課程の評価・改善
- 「個別の教育支援計画」の見直しと支援者ミーティングの充実
- 関係機関と連携した定期的な「個別の教育支援計画」の評価システム作り

- 子どもの教育的ニーズの実現のため「熊大式授業づくりシステム」の取組
- 学校、家庭、福祉、労働機関等が一堂に会して児童生徒の将来の夢や希望について話し合い、共有する支援者ミーティング
- ▲ キャリア教育全体計画においてライフキャリアの観点の不十分で活用、一貫性に課題
- ▲ 個別の教育支援計画における3年後の達成状況
- ▲ 教育目標・内容と評価の在り方の関係が不明瞭

- ライフキャリアの観点を踏まえたキャリア教育全体計画の見直し
- 個別の教育支援計画における関係機関との情報交換や連携等の促進
- 学習計画、実践、評価、改善のサイクルの明確化
- 学習活動と学習指導要領との関係をより明確化し、教育課程編成に活かす
- 研究部2班編成で小中高の一貫性や関連性を図る
- 研究に関し、各学部、分掌部、NW会議が連携した横断的な取組

自立と社会参加に求められるコンピテンシー(資質・能力)の育成

2

- 「ライフキャリア指導内容一覧表」の作成と活用
- 社会の求める育成すべき資質・能力に応える学習の創設・展開
- 各教科等における具体的な教育目標・内容と評価の関連性の明確化

- 各学部において学習指導要領と教育活動との関連性を図りながら年間計画や学習内容について検討
- ▲ 育成すべき資質・能力の体系化が不十分で継続的・系統的な教育支援ができていない
- ▲ 教育活動において知識面でとどまり、活用までの発展が不十分
- ▲ 目標や内容等の検討が学部内にとどまり、連携や共通理解が不十分

- 「資質能力プランニング班」においてライフキャリアの観点から育成すべき資質・能力についての整理、可視化(NW会議での情報や意見等を反映)
- 各教科等における教育目標や内容、学習評価の関連の明確化
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画等の書式の検討

主体的・協働的な学習活動が躍動する授業の創造

3

- 「アクティブ・ラーニング」の探求
- 大学や地域の企業と連携したデュアルシステムの実施
- 大学、企業、関係機関と連携した学習展開(外部講師等)

- コミュニケーション能力を育む実践研究において実態に応じた指導内容や方法、教育課程等を明確化
- 進路状況において一般就労しているほとんどがサービス業に従事
- ものづくりを中心とした「班別作業学習」と愛WORKと連携した清掃作業、受注作業に取り組む「トライアル作業」を実施
- ▲ サービス業で求められる能力育成を含めた実践的な学習展開や実際の場面で活用できるような学習の必要性
- ▲ 全ての教育活動において主体的・協働的な学習活動展開の必要性

- 「実践研究班」において「アクティブ・ラーニング」について整理や授業研究
- 学習指導案の書式の検討
- 作業学習「サービス班」を創設し、清掃業務や接客業務の取組
- 毎週「トライアル作業(職業)」を設定し、地域の企業や事務所での職場実習
- 外部講師(清掃・喫茶関係等)と連携した授業展開

就労支援の充実とセンター的機能の強化

4

- 校内の就労支援体制の充実(関係機関と連携した職場開拓、卒業生のフォローアップ等)
- 就職支援コーディネーターと連携した職場開拓やアセスメント、ジョブマッチングの実施
- 「学校版就労支援アセスメントシート」の開発
- 研修会の充実(本校職員、地域向けの研修会の開催・運営、高等学校等への授業公開との実施)
- 地域の進路・就労支援に関するセンター的機能の強化(高等学校等への地域のセンター的機能)

- 個別面談(進路相談)にて進路ニーズを把握し、職場開拓や現場実習を実施
- 本校支援エリアにおいて各高校の支援体制が不十分
- 私学特別支援相談員と連携した情報交換等を実施
- 教職員向けの「進路支援フォーラム」、本校保護者向けに「地域支援懇談会」を毎年開催
- ▲ 的確なアセスメントに基づく、一人一人に合った職場開拓とジョブマッチングの必要性
- ▲ 進路・就労に関する情報提供の必要性
- ▲ 高等学校からの相談依頼、研修会参加の少なさ

- 就労支援相談窓口「就労サポートすずかけ」を開設
- 職場開拓、巡回指導、フォローアップ、高校への就労支援充実のため「就職支援コーディネーター」を配置
- 保護者、高校教職員向けの進路・就労に関する研修会を開催

進路先との移行支援の可視化

5

- 「就職支援ネットワーク会議」の連携や意見交換等による移行支援の双方向化・継続化
- 就労支援に係る卒業生のフォローアップ体制(時期、回数、内容等)の明確化
- 移行支援体制の明確化による他の特別支援学校への知見の拡大

- すずかけの会では活動、情報共有等が密である
- 「個別の移行支援計画」を作成し、進路先で「移行支援会議」を開催
- 一般就労する生徒に関し、くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンターへの登録やジョブコーチ等の打ち合わせ、移行支援会議への同行依頼
- 進路指導主事を中心にフォローアップを実施、夏季休業中は全職員で実施
- ▲ 卒業生・進路先の情報の共有及びすずかけの会の運営が難しい状況
- ▲ きめ細やかなフォローアップの実施に向け、関係機関と連携した就労支援システムの必要性

- 「就労サポートすずかけ」で卒業生の情報管理、すずかけの会の組織的な運営
- 「移行支援会議」と併せて「支援者ミーティング」を実施し、卒業10年後の目標設定及び共有
- 卒業10年間を見据えた関係機関と連携した計画的なフォローアップの実施